

あらすじ

主人公である少年は、中国朝鮮族自治州・延吉（えんきつ）に生まれ、10歳のときに日本へ移住した。20歳を迎えた少年は、自分の過去を振り返るために、画家だった父を探すことを決意する。故郷・延吉で父の行方を尋ね歩くが、誰も消息を知らないばかりか、皆、父についてあまり語りたがらない。どうにか18年ぶりに再会した父は、不法滞在の日雇い労働者として生計を立てながら、借金取りに追われる日々を送っていた。息子を前に虚栄心と自己満足的な愛情を「お金」によって表現しようとするが、そんな父を前に息子は辟易としてしまう…。

韓国・北朝鮮の他に、もう一つ存在する「中国朝鮮族」。同じ民族でありながらも注目されて来なかつた中国朝鮮族をテーマに取り上げた、初のドキュメンタリー映画。

クラウドファンディングによって製作費を集めて完成させる。国内外の映画祭へ出品中。

山賀博之（プロデューサー）

映画監督・脚本家。大ヒットアニメ『エヴァンゲリオン』で知られる、アニメ会社GAINAXの代表取締役社長。2017年から京都・大徳寺真珠庵「襖絵新調プロジェクト」に参加し、半年間住み込みで襖絵を描き上げた。

代表作は『王立宇宙軍 オネアミスの翼』。現在、続編である『蒼きウル』を制作中で2019年世界同時公開予定。角田龍一のバイト先へ山賀さんが偶然訪れたことがきっかけで知り合いになる。

音楽 郷古簾

宮城県多賀城市出身。2013年8月ティボール・ヴァルガシオン国際ヴァイオリン・コンクール優勝ならびに聴衆賞・現代曲賞を受賞。2006年第11回ユーディ・メニューイン青少年国際ヴァイオリンコンクールジュニア部門第1位（史上最年少優勝）。2017年より3年かけてベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ全曲を演奏するシリーズにも取り組んでいる。

現在、国内外で最も注目されている若手ヴァイオリニストのひとり。角田龍一とは中学校時代の同級生。



プロデューサー・監督 角田龍一

1993年、中国朝鮮族自治州・吉林省延吉市生まれ。宮城県多賀城市へ移住。15歳のとき帰化する。新潟県立大学卒業。在学中から映画館シネ・ウインドでアルバイト。会報である月刊ウインドの編集部に所属し、記事書く傍ら、本作品の制作を始める。卒業論文は「映画におけるリアリティ」。

大学卒業後は日本各地を転々としながら本作品を編集する。資金難に陥るが、クラウドファンディングに挑戦し成功、本作品を完成させる。現在は国内外に赴き上映会を企画。2018年から大徳寺真珠庵で書生として居候しながら「襖絵新調プロジェクト」を紹介する記事や映像を制作した。現在はお寺を出て、京都の山の方で一人暮らし。

●新潟・市民映画館 シネ・ウインド
電話：025-243-5530
〒950-0909 新潟県新潟市中央区八千代2丁目1-1
万代シティ第二駐車場ビル1階

●尚絅学院高校・大講義室
電話：022-264-5881
〒980-0871 宮城県仙台市青葉区八幡1-9-27

お問い合わせ：tsunokin282@gmail.com